

株式会社ウッドピタが  
『生活者の地震対策に関する意識と実態調査』を実施

## 100点満点で35.8点、「安心できない」地震対策

### 半数以上が5年以内に震度6クラスの大地震が来ると予想

株式会社ウッドピタ(本社:名古屋市、社長:磯貝豊、矢作建設工業株式会社の100%子会社)は、本年5月にインターネットで生活者の地震対策に関する意識と実態調査を実施し、1,500人の有効回答を得ました。結果は以下の通りです。

#### [調査の背景]

文部科学省は今後30年以内に北海道から九州までの広い範囲で震度6以上の強い揺れに見舞われる可能性が高いことを明らかにしています。また、家屋倒壊による死者の多かった阪神大震災以降、国や自治体は住宅の耐震化を進めていますが、耐震性に不安のある住宅はまだ数多く残されています。こうした中で、弊社では地震対策について生活者がどのような意識を持ち、対策を行なっているのか調査を実施しました。

#### [調査結果の総括]

これまでに「地震対策を考えたことがある」人は約70%。その一方で「現在の対策では安心できない」人が約50%にのぼり、地震対策の自己評価も100点満点で平均35.8点と低いレベルにとどまりました。地震への備えが必要なことは認識されているものの、現在実施している対策ではまだ不十分で、不安を感じている人が多いことがうかがえます。これまで地震対策が十分にできなかった理由としては「後回しにした」「どこまでしてよいかわからなかった」「費用がなかった」と答えた人が多く、十分な対策の実施には情報や資金の不足といった課題のあることがわかりました。

詳しくはお問い合わせください。